



まま子滝不動尊

昔、昔の
七つ八つの
ましてまま子の
父なきあとの
かあい我が子と
けんかのたゆる
思いあまりて
山の谷まに
オツカオツカと
心を鬼に
夜な夜な夢に
いかれるまなこ
いかに汝は
ぎりある子をば
捨てたか、しかと
ほうけん胸に
なんじ一命
せつせと働く
まま子は母に
孝子の家と
たれというなく
不動の靈験
今は昔と
生ける我が子を
悪縁悪果の
三世をめぐり
消え失せず

生きた心ちも
ああ正夢か
いそぎまま子を
泣きつかれたる
一目見るより
許してくれよ
我ほど悪い
さんげの誠に
不動のおつけ
三世のむくいぞ
おのく心
不動尊を
昨夜にかわる
笑みをたたえて
泣きてわび入る
さんげは不動に
子どもの成長
我はつくりし
我はにのうの
因果の道理
みじゆくの子とは
名前をつけて
まま子の滝の
靈験いとも
願いも願い
大悲の功德
なかりけり
正夢か
つれに行く
その姿
泣きすが
許してぞ
ものはない
胸つまる
なかりせば
きびしけれ
引きしめて
拝むなり
今日のかお
ににごこと
母おやの
かよいけん
楽しみに
その報い
外なはし
明らかに
思わずに
供養せよ
不動尊
あらたなり
不動尊
きわぎなし

一九 まま子滝不動尊御詠歌

釈泉寺後方の小流に高さ五十六メートルの小滝があるが、昔々のこと、この滝壺へ継母が「まま子」を投げ

落したという悲愁物語がある。

これについて権名保弘氏のご詠歌がある。